

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所 第1委員会室	担当職員 池永
日 時	平成27年9月18日(金曜日)	開 議 午後 1 時 15 分	閉 議 午後 2 時 17 分
出席委員	明田 馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松 西口議長		
理事者 出席者	-		
事務局	鈴木係長、池永		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名

## 会 議 の 概 要

### 1 開 会

#### 2 事務事業評価対象事業の論点整理

- ( 1 ) ごみ減量・資源化等推進事業経費
- ( 2 ) アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費
- ( 3 ) 敬老事業経費

< 明田委員長 >

論点整理を行う。( 1 ) ごみ減量・資源化等推進事業経費についてはどうか。

( 意見なし )

< 明田委員長 >

では先に( 2 ) アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費についてはどうか。

< 酒井委員 >

委託料で何をして何が分かったのか。 経費はこれからどのくらいかかるのか。上限は。 財源は適切か。大きな負担になっている。事業の内容を見て効果的なのか判断したい。

< 馬場副委員長 >

大半の魚類学者は、スタジアムの建設そのものがアユモドキの存続をおびやかす、どれだけ人工的に作っても、アユモドキにはもっと広い範囲が必要だと言われている。その吟味はどのようにしているのかを評価の基準に入れたい。

< 酒井委員 >

調査の目的は、スタジアムや公園整備をこのまま進めていって大丈夫かどうかの確認である。今までの調査で何が分かったのか。アユモドキのためだと言われ、上限も明確にしないまま、言われる通りに追加しているように感じる。目的と効果の確認、今後の見通しや財源などをしっかり見ていきたい。

< 明田委員長 >

アユモドキの保護をするための調査をし、それなりの実績は上げてこられているとは考えるが、確認をしていきたい。

< 馬場副委員長 >

「亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会が行う事業を支援して、亀岡市の環境シンボルであるアユモドキの生息環境保全を図った」とあるが、支援を行うことと生息環境保全がどう関連するのか。生息環境を整備するのはどういうことなのか分かりにくい。

< 酒井委員 >

従来からやってきた環境保全事業と、スタジアムに関連して出てきた事業とは分けた方が分かりやすい。スタジアムに関する部分で国の補助は難しいとのことであるが、本市の負担を減らすために、それをクリアするためにはどうすれば良いか聞きたい。

< 明田委員長 >

( 3 ) 敬老事業経費についてはどうか。

< 酒井委員 >

目的に「高齢者の長寿を祝うとともに、地域の中で支えあう」とあるが、高齢者の長寿を祝うのは目的ではない。「地域の中で支えあう安全・安心なまちづくりを促進する」という目的に照らしてこの手法はどうなのか。高齢者が喜んでいるのでやめることはできないという答弁がこれまでもあったが、その理由は成り立つのか。また、今までの議論で、自治体と話し合って今後のあり方を考えるとあったが、アンケートが資料として出てきていないので、自治会アンケートを出していただきたい。また、補助金の交付要領を出していただき、対象がなぜ自治会と特養だけなのかを聞きたい。事業報告書もいくつか出していただきたい。出席者 1 人あたり 5 千円の補助金を全て使い切っているのか。使った中身を見た上で判断したい。

< 馬場副委員長 >

予算に限りがあり 75 歳以上になったが、今後も対象年齢が上がるのか。また地域により取り組みの内容が違うが、補助金を出している市側の評価はどうなのか。好きに使って良いという考えなのか確認したい。

< 酒井委員 >

自治会により出席率が 13% のところも 4 割を超えるところもある。この手法で良いのか。24 年 9 月決算特別委員会での答弁では、「楽しみにしておられる状況がある」「自治会の一大行事だから変更できない」とあるが、それは税金を投入する理由にはならない。例えば今回インフルエンザのワクチンが 500 円上がったが、全員に渡しても、この金額より少ない。敬老から安心へどうシフトするのかを考えなければならない。事業費を減らしたと言っても、対象人数が増えて結局は増額になっており、この状態のままでは続けられない事業である。そろそろ結論を出すべきである。

< 奥村委員 >

孫世代・子ども世代等と地域でコミュニケーションを図れることは良い。ただ、記念品は不要。最高齢の人へのお祝いも、しばらく同じ人がもらうことになる。自治会が開催される会食などは必要だと考えるが、欠席者には不要ではないか。

< 酒井委員 >

孫世代・子世代とあったが、自治会によって異なる。また、自治会に加入していな

い人が対象外なら問題である。また、補助金の交付要領で、こじんまりと狭い地域でお祝いをできないことになっている。

<馬場副委員長>

高齢者を大切に気軽に声をかけ、皆で祝うような地域は防災力に強い。地域力につながる。

<富谷委員>

今年参加し、参加者は少なかったが、楽しみにされていると感じた。記念品は無駄になっていることが多い。行きたくて行けなかった人もおられる中、中身の検討も必要。

<酒井委員>

敬老会が要らないということではなく、公金を入れる理由は何かを見ていきたい。論点は大きく2つあり、1つめは敬老事業そのものに補助金を出すことがどうかということ、2つめは内容がどうかということである。地域力を高めることを目的とするなら、違うやり方も考えられる。自治会アンケートの内容、補助金要綱、いくつかの自治会の事業報告書、の3点について資料請求をお願いしたい。

<明田委員長>

いくつの自治会か。

<酒井委員>

違ったやり方をしているところを選びたい。施設で実施しているところ、出席率が高いところ、出席率が低いところ、の3件でどうか。

<明田委員長>

どこにするか決めておいた方がよい。

<酒井委員>

施設はどこでもよい。自治会は篠町と河原林町になる。アンケートでは何が出てきてどう検討したのかを確認したい。

<明田委員長>

確認していくこととする。(1)ごみ減量・資源化等推進事業経費についてはどうか。また、その他の項目についても何かあれば。

<馬場副委員長>

ごみ減量の取り組みの推移と今後の見通し。分別拡大など今後の方向性をどう考えているか。レジ袋、エコバッグの取り組みが店によって異なるが、商業施設にどのように協力要請しているのか。埋立処分場の土地は今後どうなるのか。

<酒井委員>

今までやってきたことに対する論点も必要。クリーンかめおか推進会議への補助金はどうか。また、生ごみ処理機への補助金について、作った堆肥の利用が少なく、壊れやすいとも聞く。見直してはどうか。

<小松委員>

敬老事業の記念品は、国も100歳の記念の銀杯をメッキにして経費を節減するようである。どうしても必要な部分以外の見直しは必要である。「敬老会は、高齢者の外出を促進し、孤立化を防ぎ、地域全体のつながりを築く一つの重要な行事」とある。まさにこのとおりであるが、これは効果として数値化しにくく、評価しにくい部分である。自治会の自由裁量が大きい事業であり、これは大事にすべきである。「これをやらなければいけない」と市の方からは言うべきではない。敬老事業は必要であるし、地域力の面から拡充すべきではないか。

< 奥村委員 >

「平等」というが、どこまで平等を追求していくのかが難しい。欠席なら補助金なしで良いのでは。病院に入っていて行けない人には、医療費の補助等もしている。1つの事業に対して平等ではなく、全体を考えたら平等にやっているものである。敬老会だけでなくいろいろなイベントがあるが、参加した人に特権があるものであり、欠席者にまで配慮する必要はないのではないか。

< 酒井委員 >

高齢者の外出促進や孤立防止が目的なら、その目的に照らして敬老会で良いのか。日常的に出ていく場を作る方が良いのでは。敬老会を続けるべきかどうかではなく、税金を入れるべきかどうかということである。また補助金を出している以上、報告は必要である。

< 明田委員長 >

いろいろな考えがある。その場で確認し、理解が進むようにしていただきたい。

< 馬場副委員長 >

要支援・要介護等で行きたくても行けない人をヘルパーなどの事業者が祝っているところもある。そういうところへの支援はどうかを確認したい。

< 明田委員長 >

いろいろ意見が出たが、論点としてどのように整理するか。

< 酒井委員 >

喜ばれる高齢者がいて、自治会も頑張ってきて、良い敬老会の事業を続けてきたのは分かるが、税金を入れてやるべき事業かどうかを議論するためにいろいろと前提を述べたものである。敬老事業が要らないという訳ではない。孤立化防止や外出促進が目的であれば、このようなお金の使い方が効果的なのかを見ていきたい。

< 奥村委員 >

私は今のところ税金を入れて継続するべきだと考える。ただ、このままではいけない。要らないところは精査すべきであり、要らないところは何なのか考えていかなければならない。また、について、クリーンかめおか推進会議の目的は一定果たしたのではないか。環境フェスタや会報誌、会議、街頭啓発など見直しても良いのでは。各自治会にクリーンかめおか推進員がおられ、ごみ捨ての指導などをされているが、これだけ皆に情報があり、他の媒体で広報もしている中、本当にそれだけの者が要るのか。

< 馬場副委員長 >

敬老事業について、進めるならどのような方向で進めるのか、減らすならどのような方向で減らすのか、おおざっぱに分けないと論点整理にならないのでは。

< 明田委員長 >

決算についての審査なので、あまり次のことばかり聞くのも難しい。一つの方向性を持つように、正副委員長と事務局で整理することで良いか。

< 酒井委員 >

敬老事業の論点は大きく2つである。論点が乱立して整理がつかないという状況ではない。

< 馬場副委員長 >

事務事業評価は、事業の目的、方法論、成果、コストパフォーマンスの視点も入れながら評価して、今後の方向性を見出すものである。その角度で正副委員長と事務局で整理することで一任いただければ。

< 明田委員長 >

正副委員長で整理することとする。

< 奥村委員 >

決算委員会の評価を、次につなげられるような指摘ができればと考える。

< 明田委員長 >

委員会で検討しながら進めていくが、最終的には決算特別委員会で指摘要望事項に取りあげていただく作業が必要である。事務局から何かあれば。

< 事務局 >

論点については、正副委員長と事務局で調整するということだが、資料請求は3点で良かったか。

< 明田委員長 >

それで良い。

### 3 その他

#### ( 1 ) 審査日程

- ・ 9月24日(木) 10:30 ~ 所管分調査(健康福祉部)
- ・ 9月25日(金) 10:00 ~ 所管分調査(環境市民部)、事務事業評価
- ・ 9月28日(月) 10:00 ~ 所管分調査(環境市民部残り、市立病院)

< 明田委員長 >

事務局から説明を。

< 事務局 >

( 審査日程説明 )

24日(木)の決算全体会には、提出予定議案の概要を持参いただきたい。

< 明田委員長 >

これから正副委員長で論点整理し、また連絡する。

散会 ~ 14:17